

CircleK Sunkus



WAKU WAKU? 通信

株式会社 サークルKサンクス

2006年2月期 中間事業報告書

2005年3月1日～2005年8月31日

[証券コード:3337]

CONTENTS

- 01 _ 株主の皆さまへ
- 03 _ 投資家の視点
- 06 _ IR 活動レビュー
- 07 _ 合併から1年を迎えて
- 09 _ 要約財務諸表
- 14 _ 環境への取り組み・社会貢献活動
- 15 _ コンビニエンスストア業界比較
- 16 _ 株主還元策
- 17 _ 株主様アンケート結果のご報告
- 18 _ 株式情報／会社情報



株主の皆さまへ

2005年8月期の経常利益は、前期比そして計画比をともに上回る結果となり、過去最高益を更新することができました。



当期(2006年2月期)は「合併効果実現の年」

株主の皆さまには、平素より当社へのご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

当社は、3ヵ年計画の1年目にあたる「合併実現と組織体制整備の年」を終え、2年目の「合併効果実現の年」へ入りました。株主様より頂戴したアンケートを拝見していても、合併効果や合併以降の取り組みに関するご意見をたくさんいただいております。改めて株主様のご関心の高さを実感しております。当中間期(2005年8月期)は、3ヵ年計画の前提ともなる業務プロセス1本化の取り組みとして、商品ベンダーや物流の統合を特に推し進めました。これまでのところ計画通りに進捗しており、その結果、統合を行った商品カテゴリーについては値入率が改善するなど、効果が表れ始めています。また、6,300店強のチェーン規模を活かした取り組みも、商品面・サービス面ともに積極的に展開しました。バラエティに富んだ合同キャンペーンやお互いの成功事例を共有した商品展開、そして次々と導入される新サービスなどは、片方のチェーンだけでは成し得なかったことではないかと考えております。

詳細につきましては、P.7、8の「合併から1年を迎えて」の中でご紹介していますのでご覧ください。

2005年8月期の連結業績

2005年8月期の連結業績は右表の通りです。既存店売上前年比および出店数が計画を下回った結果、チェーン全店売上高は計画未達となりました。しかしながら、合併効果による経費節減で販売費及び一般管理費が計画を下回ったことから、冒頭でも申し上げた通り、経常利益は147億円と前期および計画をともに上回る過去最高益となりました。また、固定資産の減損会計を適用し、減損損失を特別損失に計上したため、中間純利益は52億円と減益になりましたが、計画は上回ることができました。売上と出店の状況に関する詳細は、P.3、4をご参照下さい。

2006年2月期の連結業績見通し

下期についても、引き続き合併効果を実現するための統合を推し進めるほか、上期に課題となった出店や既存店の売上についても、P.3、4でご紹介しているような施

策に取り組みながら、計画達成を目指してまいります。これらの取り組みに加えて、販売費及び一般管理費の節減に努め、経常利益は前期比9.8%増の259億円を見込んでいます。また当期純利益は、厚生年金基金代行返上に伴う退職給付会計処理として特別利益が計上されるため、中間純利益よりマイナス幅が縮小し、前期比7%減の117億円を予想しています。

2006年2月期 年間配当を2円増配

当期は会計制度の変更などに伴い、当期純利益は減益となる予定ですが、日頃当社をご支援いただいている株主の皆さまへ利益還元をさせていただきたく、当期の年間配当を前期に比べ2円増配し38円とさせていただく予定です。中間配当、期末配当ともに1株あたり19円を見込んでいます。また、当期の配当性向は27.8%となる見込みですが、将来的には30%まで高めていく考えです。

景気は緩やかな回復を見せているものの、同業はもちろん新業態の台頭などにより異業種との競合も激化し、当社を取り巻く環境は引き続き厳しいと予想されます。このような環境においても、来期までにやるべき統合をスケジュール通り推し進めるとともに、出店および既存

サークルKサンクス連結業績

(単位:百万円)

	05/8期	前年同期比
チェーン全店売上高	479,110	-0.1%
営業総収入	95,463	+5.6%
営業総利益	69,229	+1.7%
営業利益	15,061	+6.0%
経常利益	14,730	+3.8%
中間純利益	5,290	-33.2%
総資産	222,308	+0.3%
株主資本	113,657	-3.2%
期末店舗数(エリアFCを含む)	6,349店	+10店

(注) 期末店舗数は前期末との比較です。

店の売上においても取り組みを強化し、当期の業績計画を達成してまいり所存です。株主の皆さまには、今後ともなお一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

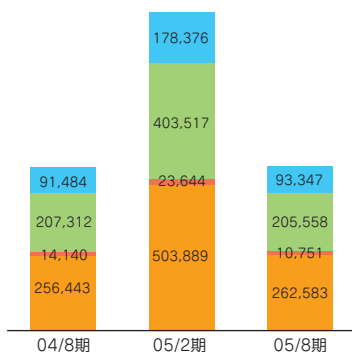
代表取締役社長

土方 清

グループ売上高の推移

(単位:百万円)

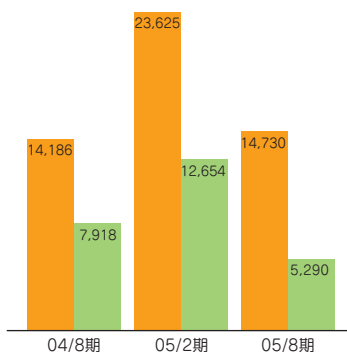
■ サークルK本体 ■ サークルKエリアFC
■ サンクス本体 ■ サンクスエリアFC



経常利益/中間(当期)純利益の推移

(単位:百万円)

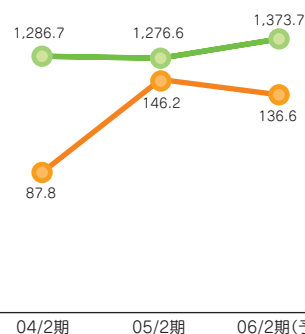
■ 経常利益 ■ 中間(当期)純利益



1株あたり当期純利益/ 1株あたり株主資本の推移

(単位:円)

● 1株あたり当期純利益
● 1株あたり株主資本



(注) 04/2期は大量閉店に伴う閉店損失などにより減益となったため、1株あたり当期純利益は非常に低い数値を示しています。

投資家の視点

Q. 2005年8月期の出店数が計画を下回った要因は？

A. 2005年8月期におけるサークルKサンクスの出店数は、計画の187店を41店下回る146店という厳しい結果となりました。チェーン別では、サークルKが13店未達の84店、サンクスが28店未達の62店となっています。その主な要因は、加盟店候補者の確保が難しくなっていることです。加盟を希望する方が減少傾向であることに加え、加盟していただく際の基準を当社がより厳しく設定していることも影響していると考えられます。こういった厳しい状況を踏まえ、当社は4つの取り組みを実行してまいります。

- ① 加盟契約の見直しを検討し、加盟候補者の確保を促進
- ② 東京・名古屋・大阪での集中出店に向けた開発人員を増員
- ③ 売上の厳しい北海道・東北では、既存店をより良い立地へ置き換えるリロケートでの出店を推進
- ④ 来期の群馬県進出に向けた活動を継続

《追加情報：出店・閉店について》

2005年8月期の新店日販は、サンクスが前年同期を下回る46万4千円だったものの、サークルKは非常に好調だった「愛・地球博店」の影響もあって、計画および前年同期を上回る56万9千円※となりました。一方、将来競争を維持するのが難しいと判断した店舗については閉店を進め、サークルKが85店、サンクスが77店となり、サークルKサンクスで計画を40店上回る162店を閉めました。

※「愛・地球博店」を除いたサークルKの新店日販は49万1千円です。

都道府県別店舗数：36都道府県 6,349店（2005年8月31日現在）

										北海道 0/268			
										青森 109/68		岩手 7/86	
										秋田 28/87		宮城 0/117	
										山形 0/69		福島 0/11	
										栃木 0/36		茨城 0/56	
										東京 70/594			
										千葉 0/206			

Q. 既存店売上前年比におけるサークルKとサンクスの差は？

A. 2005年8月期の既存店売上前年比は、サークルK-1.4%、サンクス-3.5%と約2ポイントの差が開きました。その主な要因は次の2点です。

- ① サンクスの北海道・東北における店舗構成比は3割弱にのぼります。下図の通り、この北海道・東北において、サンクスの既存店売上前年比は落ち込みが大きく、全体の売上にも影響を与えています。
- ② 下図の通り、以前のサンクスの特徴は酒の取扱店比率が業界でも非常に高いことでしたが、規制緩和による酒販売の自由化により、図のサークルKの伸びと同様、他チェーンの酒取扱店が急速に増えてきました。この競合激化によりサンクスの優位性が薄れ、酒の売上は厳しい状況が続いています。

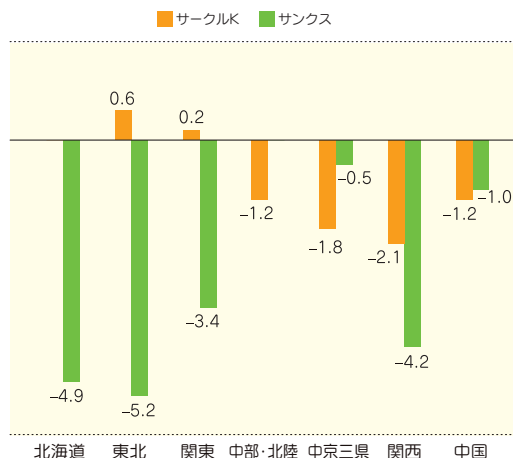
一方、サークルKでは、より良い立地への店舗置き換えが進んだほか、専用オープンでホットサンド本来のカリッと食感を実現した「ホットバレット」が好調に推移するなどし、前年比マイナスながらも比較的健闘しました。

《追加情報：売上について》

チェーン別では上記の通りとなりましたが、2005年8月期におけるサークルKサンクスの既存店売上前年比は-2.4%でした。夏は暑ければ暑いほど飲料や冷たい麺類などの売上が伸長し、好調となるコンビニエンスストア業界ですが、当中間期は猛暑であった前期ほど天候には恵まれず、前年を割る結果となりました。サークルKは3年前より店舗スタッフの戦力化を図る教育プログラム「店舗運営の6段階」を実践しており、その効果が徐々に表れています。合併以降このプログラムを導入したサンクスでもさらに浸透を図り、伸び悩んでいる既存店売上前年比の伸長につなげる考えです。

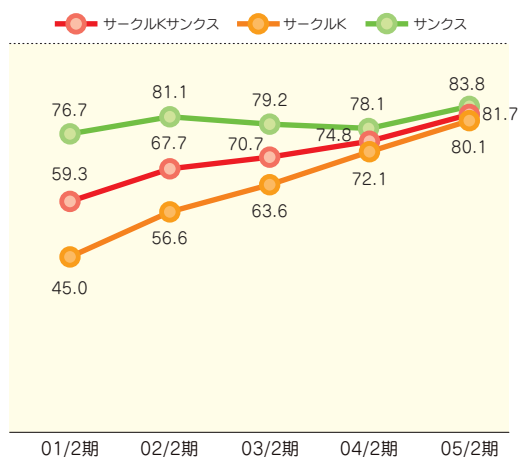
地域別既存店売上前年比（2005年8月期）

（単位：%）



酒類取扱店比率

（単位：%）



（注）中京三県とは、愛知県・三重県・岐阜県を表しています。

Q. 上期は出店や既存店前年比が計画を下回ったようだが、通期の計画に変更はないのか？

A. 出店は、下期については期首の計画通りを見込んでいます。通期では上期の未達分のみを引き下げています。一方、閉店は下期についても期首の計画に上乗せする予定です。この店舗数の修正に伴い、チェーン全店売上高などを期首の計画から修正していますが、合併による経費節減などで販売費及び一般管理費の伸びを抑えることから、経常利益は期首の計画通りを予定しています。また、厚生年金基金代行返上に伴う退職給付会計処理により、特別利益約17億円を見込んでおり、当期純利益の前期比マイナス幅は中間純利益に比べ縮小する見込みです。

●2006年2月期 通期計画(連結)

(単位:百万円、店)

	06/2期(予)		期首の 06/2期計画
		前期比	
チェーン全店売上高	934,810	+0.1%	955,610
営業総収入	186,360	+5.4%	181,580
販売費及び一般管理費	108,740	+1.0%	109,760
営業利益	27,450	+12.6%	27,620
経常利益	25,930	+9.8%	25,930
当期純利益	11,770	-7.0%	12,550

上記計画の前提となる営業指標(単体)

出店	332	-14	370
閉店	306	+83	208
期末店舗数	5,154	+26	5,290
既存店売上前年比	-2.0%	—	-0.9%
平均値入率	29.01%	+0.22%	28.95%

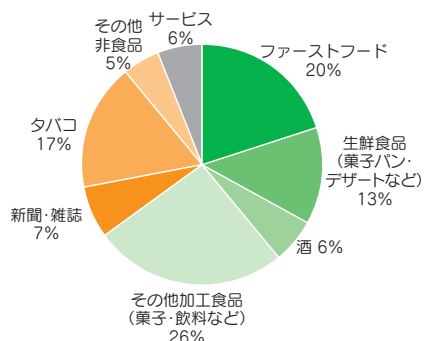
Q. 他チェーンに飲料値下げの動きが一部あったが、サークルKサンクスの方針は？

A. 以前より、当社は飲料・菓子・雑貨などを対象とし、「おっ買得セール」と題した約2週間限定の特売セールを行ってきました。また10月からは、期間限定の飲料値引きセール「今だけお得セール」を実施しています。この「今だけお得セール」は、Edy機能を搭載したサークルKサンクスの「KARUWAZA CLUB」カードで対象商品をお買い上げいただくと、セール価格からさらに10円を値引きするというものです。当社は飲料について恒常的な値下げは行わず、これらの期間限定特売セールを通じて、お客様へお買い得感のある商品をご提供していく考えです。

ピックアップ サークルKサンクス!【第1回 売上構成比】

このコーナーでは当社に関する指標を毎回1つ取り上げ、知っているようで意外と知らない当社の現状を簡単にご説明します。1回目は商品の売上構成比です。

1店あたり約3,000アイテム並んでいる商品ですが、では、どのカテゴリーがどのくらいの売上を占めているのでしょうか？ それを示したのが右の円グラフです。弁当などのファーストフードは全体の2割を占めており、例えば1日の売上が50万円とすると、10万円はファーストフードによる売上となります。各社がファーストフードの商品開発に注力するのにはこういった背景もあります。また、タバコの構成比上昇は当社に近年見られる傾向です。



IR活動レビュー

IRとはInvestor Relationsの略で「投資家向け広報」と訳されます。よく耳にするPR (Public Relations)が一般の人々(=public)へ広く知らせることであるのに対し、IRは投資家(=investor)を対象とした広報と言えます。では、当社は具体的にどのようなIR活動を行っているのでしょうか？ 2005年8月期の主な活動を下記にまとめました。

月日	活動内容	株主様との接点
2005年 4月14日	決算発表	当社ホームページ(以下HP)において、決算資料および決算のポイントなどに関するスライドをご覧ください
5月25日	株主総会・事業説明会開催 WAKUWAKU? 通信刊行 有価証券報告書刊行	WAKUWAKU? 通信を全株主様へお届けしました WAKUWAKU? 通信、有価証券報告書ともにHPでもご覧いただけます 株主総会・事業説明会については下記をご覧ください
7月7日	第1四半期決算発表	HPにおいて決算資料をご覧ください
8月末	投資家ガイドブック・ アニュアルレポート刊行	HPにおいて、誌面をご覧いただけるほか、誌面に掲載されている数値のエクセルファイルをダウンロードしていただけます
10月13日	中間決算発表	HPにおいて、決算資料をご覧いただけるほか、決算のポイントと下期の取り組みについて当社IR担当者の生の声とスライドでご説明しています(音声の配信は2006年1月12日まで)
11月17日	中間WAKUWAKU? 通信刊行	13,676名の全株主様へお届けしました
毎月11日頃	月次営業報告発表	HPにおいて毎月の売上状況や店舗数をご覧ください

※インターネットをご利用でない株主様で資料をご希望の方は、下記までご請求下さい。郵送させていただきます。

〒135-8539 東京都江東区塩浜2-20-1 塩浜ビル 株式会社サークルKサンクス 広報IR環境室宛

《株主総会・事業説明会レポート》

2005年5月25日、東京 大手町のサンケイプラザにて株主総会を開催し、東北から四国まで全国149名の株主様にご出席いただきました。お忙しいところ誠にありがとうございました。質疑応答では、4名の株主様より配当金や自社株買いなど株主還元に関するご質問を主に頂戴しました。また、総会終了後には事業説明会を開催し、スライドをご覧いただきながら経営者より事業の概況や今後の見通しに関するご説明を行った後、再び質疑応答を実施しました。2006年の株主総会は同会場にて5月24日に開催する予定です。皆様までご出席を心よりお待ちしております。



事業説明会でお持ち帰りいただいた商品の一例

《大和IR選定「2005年インターネットIR優秀企業賞」受賞》

大和インベスター・リレーションズ株式会社が上場会社1,144社のIRサイトを評価した結果、195社が優秀企業に選ばれました。当社はコンビニエンスストア業界で唯一の受賞となりました。



合併から1年を迎えて

2004年9月1日の合併から1年以上が経ちました。この間、当社は3カ年計画の前提ともなる各部門での業務プロセス1本化を進めてまいりました。また、合併によって誕生した6,300店を超えるチェーン規模を活かし、合同キャンペーンや両チェーンでの成功事例共有による商品展開、そしてサービスの強化を実現しています。

業務プロセス1本化の進捗状況

当社は2007年2月期までに各部門の業務プロセス1本化を進めており、これまでのところ統合はスケジュール通りに進んでいます。中でも統合効果の大きい商品ベンダーと物流の統合は、商品カテゴリーと対象地域を徐々に拡大しており、2004年9月より着手した飲料・菓子・酒・その他加工食品の4カテゴリーは、2005年10月に集約を完了しました。また、2005年4月には冷凍食品、5月には雑貨においても集約を開始しており、いずれも2006年2月には完了する予定です。そして2007年2月期には、残るファーストフードとデリーフーズへ着手し、全商品カテゴリーの統合を実施する計画です。

2005年10月	飲料・菓子・酒・その他加工食品 集約完了 ※一部地区除く
2006年2月	冷凍食品・雑貨 集約完了予定
2007年2月期	ファーストフード・デリーフーズ統合着手予定

サービスの強化

当社は多様化するニーズに対応してお客様の利便性を高めるべく、チェーン規模を活かした新サービスを積極的に導入しています。これらの多彩なサービスで、他チェーンとの差別化を図っていく考えです。

05年4月	電子マネー「Edy」決済を導入
9月末	愛知県と岐阜県の約1,300店へ時間内引き出し手数料0円のゼロバンクを設置完了
9月～	Edy機能を搭載したサークルKサンクスの「KARUWAZA CLUB」カードにおいて
10月	電子スタンプサービスや値引きサービスを導入
10月	サンクスのみの取り扱いであった「チケットぴあ」サービスをサークルKにも拡大
10月	各種プリペイドカードをオンライン発券する「ネットプリカ」の販売を開始
11月	「ゆうパック」の取り扱いを開始
06年5月	三重県の約230店へゼロバンクを設置開始(予定)



Edy機能を搭載した当社発行のKARUWAZA CLUBカード



ゼロバンクの広告でラッピングされた名古屋バス



ネットプリカ専用什器を新設



成功事例を共有した商品展開

当社では、お客様により多くの「選ぶ楽しさ」をご提供できるよう、ファーストフードとデリーフーズについてはサークルKとサンクスそれぞれが独自の商品展開を行っています。その一方で、大変ご好評いただいた商品などについては、成功事例をお互いに共有し、より多くのお客様にご提供できるよう両チェーンでの展開を実施しています。具体的には、昨年、東京・神奈川・静岡のサークルKで好評いただいた「美登利寿司総本店」監修の「とろさんま炙り焼寿司」を、今年はサークルK・サンクスの全店で販売しました。また、サービス面でも、これまでサンクスのみで取り扱っていた「チケットぴあ」サービスを、2005年10月1日よりサークルK全店でも開始しました。これにより、常時約2万アイテムに及び多彩なチケットをご提供できるようになりました。このようにお互いの強みを共有していくことで、サークルKサンクス全体の底上げを図ってまいります。

とろさんま炙り焼寿司 395円
※写真は盛り付け例
(2005年9月～10月販売)



チビ太のおでん 105円

赤塚不二夫先生の人気漫画「おそ松くん」に登場するおでんを再現。サークルKで10年以上愛され続ける商品がサンクスへ。(一部地域を除く)



大肉包(ダイ・ロー・パオ) 200円

昨年サンクスで好評いただいた商品をリニューアル。通常の2倍というボリュームながら、皮の口どけに工夫をこらし飽きのこない味を実現。(2005年11月初旬～ なくなり次第販売終了)

合同キャンペーン

合併以降、当社はサークルKとサンクスの合同キャンペーンを積極的に展開しています。当期も2005年3月の「どえりゃ〜うみゃ〜、元気な名古屋!名古屋フェア」に始まり、6月には「味の饗宴フェア」を実施しました。この「味の饗宴フェア」は、これまでサンクスがタイアップ商品を発売してきた神田川俊郎氏と、サークルKがタイアップしてきた陳建一氏、両氏の監修による商品をサークルKサンクス全店で展開したもので、まさに合併によって実現した企画といえます。その後も7月には今夏話題の映画「スター・ウォーズ エピソード3 シスの復讐」とタイアップした「スター・ウォーズフェア」、8月にはご好評をいただいた「名古屋フェア 第2弾」、そして9月には「秋のスイーツフェア」を展開しました。



要約財務諸表

中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

	サークルKサンクス 連結 2005年8月期 2005年8月31日現在	サークルKサンクス 連結 2005年2月期 2005年2月28日現在	シーアンドエス 連結 2004年8月期 2004年8月31日現在
[資産の部]			
流動資産	102,346	80,962	89,216
現金及び預金	55,804	46,917	53,655
加盟店貸勘定	3,178	3,564	2,888
有価証券	23,503	12,701	14,801
たな卸資産	3,339	2,213	2,071
繰延税金資産	1,230	863	1,172
その他	15,752	15,330	15,082
貸倒引当金	△462	△629	△455
固定資産	119,961	120,093	132,370
有形固定資産	40,678	42,353	41,979
建物及び構築物	27,625	29,004	28,483
器具及び備品	3,782	3,531	3,860
土地	8,857	9,537	9,506
その他	413	279	128
無形固定資産	6,800	7,994	19,979
ソフトウェア	4,156	5,092	5,973
ソフトウェア仮勘定	—	73	257
連結調整勘定	375	428	11,332
その他	2,269	2,399	2,415
投資その他の資産	72,481	69,744	70,412
投資有価証券	7,209	5,793	4,732
繰延税金資産	4,640	3,130	4,452
長期差入保証金	54,179	54,616	54,476
その他	7,942	7,545	8,080
貸倒引当金	△1,490	△1,340	△1,330
資産合計	222,308	201,055	221,587

固定資産

減損会計の早期適用を行ったため、固定資産が前期末に比べ1億3千1百万円減少しました。

固定資産減損会計

固定資産の減損会計とは、土地の時価が著しく下落している店舗や閉店が予定されている店舗、そして営業活動から生じる損益がマイナスという状態が続いている店舗について、帳簿価額を回収可能な価額まで減額し、その減額分を特別損失として計上する会計処理です。

(単位:百万円)

	サークルKサンクス 連結 2005年8月期 2005年8月31日現在	サークルKサンクス 連結 2005年2月期 2005年2月28日現在	シーアンドエス 連結 2004年8月期 2004年8月31日現在
〔負債の部〕			
流動負債	89,506	72,526	85,567
買掛金	46,703	39,034	46,919
加盟店借勘定	4,132	3,184	5,247
短期借入金	49	169	14
未払金	7,532	5,442	6,423
未払法人税等	5,878	2,892	4,386
預り金	20,822	17,670	17,721
賞与引当金	785	722	780
その他	3,602	3,410	4,075
固定負債	19,143	18,485	18,554
長期借入金	35	42	49
退職給付引当金	4,625	4,553	4,554
役員退職慰労引当金	—	68	50
預り保証金	12,661	12,737	12,973
リース資産減損勘定	789	—	—
その他	1,031	1,083	925
負債合計	108,650	91,011	104,122
〔少数株主持分〕			
少数株主持分	0	0	0
〔資本の部〕			
資本金	8,380	8,380	13,469
資本剰余金	36,092	36,091	26,223
利益剰余金	68,337	64,829	77,182
その他有価証券評価差額金	855	748	670
自己株式	△8	△5	△81
資本合計	113,657	110,043	117,464
負債、少数株主持分及び資本合計	222,308	201,055	221,587

預り金

2005年8月期末の預り金は208億2千2百万円と、前年同期末に比べ31億円増加しました。預り金のほとんどは、公共料金などの収納代行サービスによるものです。公共料金の取り扱い金額は、エリアFCを含むサークルKサンクス計で前年同期比13%増加と順調な伸びを示しています。

役員退職慰労引当金

当社は2005年5月25日開催の株主総会において、役員報酬制度改正の一環として役員退職慰労金制度の廃止を決議しました。このため2005年8月期の表示がなくなっています。

リース資産減損勘定

P.11の通り、特別損失として固定資産減損損失49億8千5百万円を計上しました。この内訳は、建物及び構築物21億1千5百万円、器具及び備品1億6千万円、土地7億6千5百万円、その他9億4千8百万円のほか、貸借対照表に計上されていないリース資産に対するものが9億9千5百万円あります。このリース資産に対する処理額のうち、期末の残高が負債勘定であるリース資産減損勘定として計上されています。

販売費及び一般管理費

前年同期に比べ3億1百万円増加と0.6%の伸びに抑えることができました。内訳を見ると、直営店が増えたことで人件費が前年同期に比べ6億円弱増加したほか、店舗数の伸びにより地代家賃も9億円弱増加しましたが、一方で店舗システムなどのリース期間満了や固定資産の減損による費用の減少で、設備リース料が約12億円、減価償却費が4億円強減少しました。そのほかあらゆる面で経費の節減に努めた結果、計画に比べても9億9千3百万円の減少となりました。

営業外費用

営業外費用のほとんどは閉店に伴う解約損害金です。閉店数が計画を上回ったことで、解約損害金は前年同期に比べて2億円強増加しました。

特別損失

特別損失のうち49億8千5百万円は固定資産の減損による損失です。当社は財務体質の強化を図るため、当期より固定資産の減損会計を導入しました。この損失は、将来実際に閉店を行った際に発生する閉店損失を前倒して計上したことになります。

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	サークルKサンクス 連結 2005年8月期 2005年3月1日から 2005年8月31日まで	シーアンドエス 連結 2004年8月期 2004年3月1日から 2004年8月31日まで	増減
営業収入 	60,699	60,903	△204
売上高	34,763	29,513	5,249
営業総収入	95,463	90,417	5,045
売上原価	26,234	22,340	3,893
営業総利益	69,229	68,076	1,152
販売費及び一般管理費	54,167	53,865	301
営業利益	15,061	14,210	851
営業外収益	562	612	△50
営業外費用	893	637	256
経常利益	14,730	14,186	544
特別利益	278	142	136
特別損失	5,961	784	5,176
税金等調整前中間純利益	9,048	13,544	△4,495
法人税、住民税及び事業税	5,705	4,437	1,268
法人税等調整額	△1,948	1,187	△3,135
少数株主利益	0	0	0
中間純利益	5,290	7,918	△2,627

損益計算書の

Q. 「営業収入」とは？小売業なら「売上高」が一番上に来るはずでは？

A. 当社はフランチャイズチェーン事業を営んでおり、店舗の約9割がフランチャイズ契約を結んだ加盟店、残りの約1割が直営店で構成されています。加盟店の売上高はそのまま当社の収益にはならず、加盟店より受け取るロイヤリティが当社の収益となります。これが「営業収入」の主なもの。また、「売上高」は、約1割にあたる直営店の売上高を示しています。直営店の売上高については加盟店と異なり、そのまま当社の収益となります。この「営業収入」と「売上高」を足したものが「営業総収入」で、当社の収益の大元となります。

中間連結剰余金計算書

(単位: 百万円)

	サークルKサンクス 連結 2005年8月期 2005年3月1日から 2005年8月31日まで	サークルKサンクス 連結 2005年2月期 2004年3月1日から 2005年2月28日まで	シーアンドエス 連結 2004年8月期 2004年3月1日から 2004年8月31日まで
〔資本剰余金の部〕			
資本剰余金期首残高	36,091	36,090	26,223
資本剰余金増加高	1	0	—
自己株式処分差益	1	0	—
資本剰余金中間期末(期末)残高	36,092	36,091	26,223
〔利益剰余金の部〕			
利益剰余金期首残高	64,829	12,761	70,731
利益剰余金増加高	5,290	53,200	7,918
中間(当期)純利益	5,290	9,372	7,918
合併に伴う利益剰余金増加高	—	43,827	—
利益剰余金減少高	1,783	1,131	1,467
配当金	1,723	1,100	1,378
役員賞与	60	30	89
自己株式処分差損	—	—	0
利益剰余金中間期末(期末)残高	68,337	64,829	77,182

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

	サークルKサンクス 連結 2005年8月期 2005年3月1日から 2005年8月31日まで	シーアンドエス 連結 2004年8月期 2004年3月1日から 2004年8月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	29,410	23,878
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,545	△6,868
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,977	△2,408
現金及び現金同等物の増加額	19,887	14,600
現金及び現金同等物の期首残高	58,820	52,756
新規連結子会社の増加による 現金及び現金同等物の増加額	—	389
現金及び現金同等物の中間期末残高	78,707	67,746

設備投資

2005年8月期における設備投資の総額は86億4千7百万円となりました。その主なものは、店舗賃借時の差入保証金や店舗設備といった新店に関わるものが54億7千2百万円、既存店活性化への投資が15億1千5百万円、無形固定資産や長期前払費用の支出などシステム関連の投資が7億3千5百万円となっています。

中間個別貸借対照表

(単位:百万円)

	2005年8月期 2005年8月31日現在	2005年2月期 2005年2月28日現在
〔資産の部〕		
流動資産	102,114	80,992
固定資産	117,782	117,838
有形固定資産	39,393	40,891
無形固定資産	6,408	7,549
投資その他の資産	71,980	69,396
資産合計	219,896	198,830

(単位:百万円)

	2005年8月期 2005年8月31日現在	2005年2月期 2005年2月28日現在
〔負債の部〕		
流動負債	87,354	70,703
固定負債	18,760	18,101
負債合計	106,114	88,804
〔資本の部〕		
資本金	8,380	8,380
資本剰余金	36,092	36,091
利益剰余金	68,461	64,811
その他有価証券評価差額金	855	748
自己株式	△8	△5
資本合計	113,782	110,026
負債・資本合計	219,896	198,830

中間個別損益計算書

(単位:百万円)

	2005年8月期 2005年3月1日から 2005年8月31日まで
営業総収入	93,590
売上原価	25,574
営業総利益	68,015
販売費及び一般管理費	53,040
営業利益	14,975
営業外収益	542
営業外費用	877
経常利益	14,640
特別利益	271
特別損失	5,654
税引前中間純利益	9,257
法人税、住民税及び事業税	5,692
法人税等調整額	△1,867
中間純利益	5,433
前期繰越利益	1,919
中間未処分利益	7,352

環境への取り組み・社会貢献活動

サークルKサンクスは、様々な環境保全活動および社会貢献活動を通して、社会の一員としての責任を果たしてまいります。

食品残さ堆肥で栽培した玉ねぎを収穫

当社は、名古屋市のサークルK36店より回収したお弁当や惣菜などの食品残さ約0.4トンを約70日かけて堆肥化しました。そして2005年6月6日、この堆肥を使用して栽培した玉ねぎ約1.6トンが収穫されました。この玉ねぎは当社の弁当の食材として利用され、名古屋市を中心としたサークルK約320店で6月14日より販売されました。現在のところ、食品残さ堆肥化の取り組みは試験段階ですが、今後も資源循環型社会の構築に向けて取り組んでまいります。



食品残さの堆肥で栽培した玉ねぎ

社会環境報告書2005刊行

2005年7月25日、サークルKサンクスとして初の社会環境報告書を刊行しました。環境保全への取り組みはもちろん、安心・安全な商品をお届けするための品質管理、コンプライアンス、地域社会との関わりなど社会的な取り組みについてもご紹介しています。ご希望の方は下記までご請求下さい。



★当社ホームページ「環境に関するお問い合わせ」

<http://www.circleksunkus.jp/inquiry>

★〒135-8539 東京都江東区塩浜2-20-1 塩浜ビル
株式会社サークルKサンクス 広報IR環境室宛

封筒の窓素材の変更

このWAKUWAKU?通信をお送りしている封筒の窓素材について、前回の株主様アンケートで「環境を考える会社であれば、セロファンではなく薄紙のものを使ってほしい」とのご意見を頂戴しました。ご意見をもとに早速検討を行い、今回お送りした封筒の窓素材を以前の石油を原料とした「再生プラスチック」から植物性原料の「生分解性フィルム」へ変更しました。また、アンケートでもいくつかご質問をいただきましたが、このWAKUWAKU?通信も再生紙100%の紙と環境にやさしい大豆インキを使用しています。



店頭募金のご報告

皆さまの温かいご協力をいただき、ありがとうございました。

◆全国盲導犬普及キャンペーン

(サークルK全店:4~7月)1,308万1,982円
全国盲導犬施設連合会に寄託し、盲導犬の普及・育成に役立てられます。

◆アメリカ ハリケーン・カトリーナ災害

(サークルK・サンクス全店:9月)1,423万6,756円
日本赤十字社を通じて寄託しました。



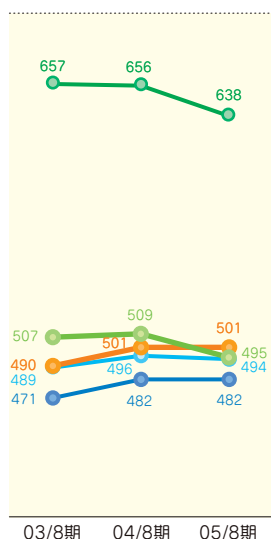
生分解性フィルムを使用した窓



コンビニエンスストア業界比較

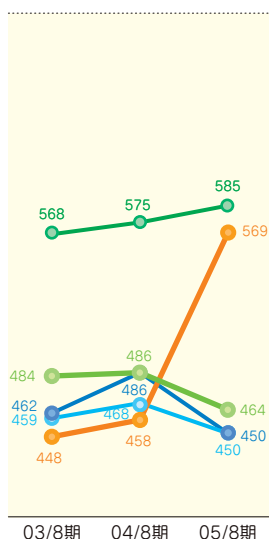
全店日販

(単位:千円)



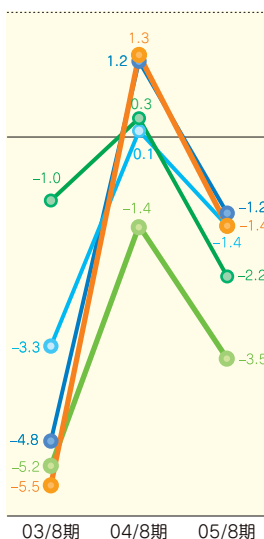
新店日販

(単位:千円)



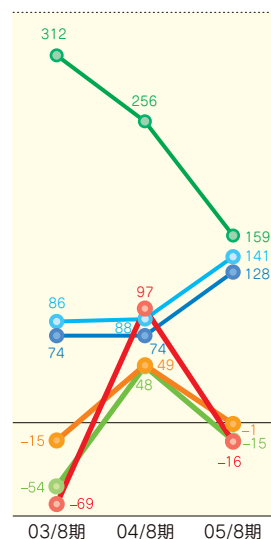
既存店売上前年比

(単位:%)



店舗純増減数

(単位:店)



● サークルK
 ● サンクス
 ● サークルKサンクス
 ● セブン-イレブン
 ● ローソン
 ● ファミリーマート

全店日販: 1日1店あたりの平均売上高

セブン-イレブンが唯一60万円台と業界一位を維持しました。続いてサークルKがかろうじて50万円台を保ち、残る3チェーンは40万円台となりました。04/8期から05/8期にかけては全チェーンが「変わらず」もしくは「マイナス」という結果となりました。

既存店売上前年比: 既存店(=開店後1年以上経過した店舗)における売上高の前年比

05/8期は全チェーンが前年を下回る結果となりました。高額ハイウェイカード販売終了の影響を受けた※03/8期から一転、04/8期は猛暑の恩恵を受け回復しましたが、05/8期はその猛暑の反動で夏物商材などが伸び悩み、厳しい結果となりました。

※ セブン-イレブンを除く

新店日販: 新店(=開店後1年以内の店舗)における1日1店あたりの売上高

05/8期は、セブン-イレブンとサークルKは改善しましたが、残りの3チェーンは04/8期に比べマイナスとなりました。05/8期のサークルKは、「愛・地球博店」の売上を含んでいる影響で急激に伸長していますが、この影響を除いても49万1千円と04/8期に比べて3万3千円改善しました。

店舗純増減数

05/8期は、セブン-イレブンとサークルKサンクスが04/8期より減少し、ローソンとファミリーマートが増加しました。直近3期で見ると、純増減数の各社の差は縮小傾向にあります。なお、05/8期末の店舗数は、セブン-イレブン10,985店、ローソン8,218店、ファミリーマート6,122店、サークルKサンクス5,112店でした。

株主還元策

2006年2月期 年間配当2円増配

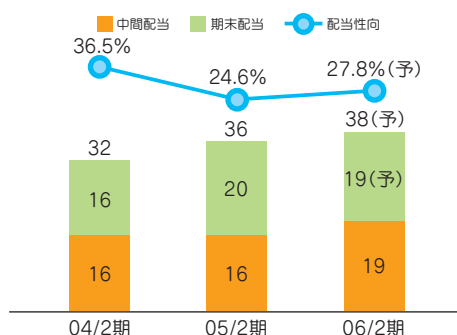
日頃当社をご支援いただいている株主の皆さまへ利益還元をさせていただきたく、2006年2月期の年間配当を前期に比べ2円増配し、中間配当・期末配当ともに1株あたり19円とさせていただく予定です。これにより2006年2月期の年間配当は38円となり、配当性向は27.8%となる見込みです。

《株主還元策の基本方針》

当社は高い成長性を維持するとともに、新店の開発や既存店の活性化、新規商品の什器や設備の導入など経営基盤を強化するための内部留保を充実させながら、業績の伸びに沿って株主の皆さまへ利益を還元してまいります。具体的には、第一に安定配当の維持を考え、利益の伸びに応じて連結当期純利益の約20%を配当として還元する方針です。また、将来的には配当性向を30%まで高めていきたいと考えております。

配当金の推移

(単位:円)



(注) 1. 04/2期は大量閉店に伴う閉店損失などにより減益となったため、配当性向は非常に高い数値を示しています。
2. 04/2期はシーアンドエスの配当金です。

《株主優待制度》

サークルK・サンクス全店でご利用いただける「株主様ご優待カード」(1枚500円相当)を、右表の通り株数に応じて年2回、8月末および2月末の株主様に対して進呈しています。「株主様ご優待カード」は、下記※を除くすべての商品のお支払にご利用いただけます。有効期限は約1年で、裏表紙のカレンダーにもご利用最終日を記載していますのでご参照下さい。なお、有効期限を過ぎたカードはご利用になれませんのでご了承下さい。

※ ご利用いただけないもの:

公共料金や通信販売代金などの料金収納、Edyへのチャージ(入金)



これまでとガラッとイメージを変えポップなデザインとしました。

ご所有株式数	株主優待内容
100～499株	1,000円分(年2,000円分)
500～999株	2,500円分(年5,000円分)
1,000株以上	5,000円分(年10,000円分)

当社の優待制度について各誌に取り上げていただきました

- ◆「見て楽しい株主優待 2005年下期」
- ◆「いちばんやさしい株主優待deトクトクスタートBOOK」
- ◆「ダイヤモンドZAi 9月号」 株主優待大カタログ
- ◆「日経マネー 9月号」 20万円台までで狙える優待&配当
- ◆「株主優待大図鑑 2005年下期」
- ◆「あるじゃん 11月号」 本当にもらってウレシイ株主優待 厳選120 ほか

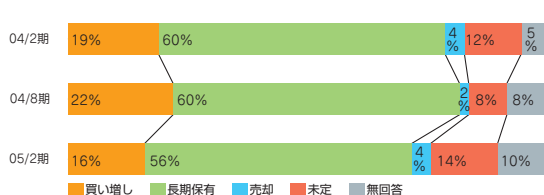
※刊行順

株主様アンケート結果のご報告

「2005年2月期 WAKUWAKU?通信」において、株主様アンケートを実施させていただきましたところ、これまでで最も多い766名の方にご回答いただきました。お忙しい中ご協力いただき、誠にありがとうございました。下記にご回答の集計結果をご報告いたします。

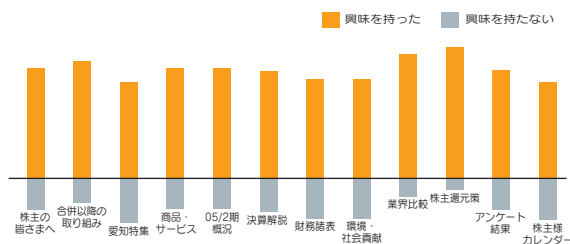
《当社株式に関する今後の方針》

04/8期に比べると「買い増し」および「長期保有」が減少し、一方で「売却」が微増となりました。



《「WAKUWAKU?通信」における関心度》

ベスト3は①株主還元策、②コンビニエンスストア業界比較、③合併以降の取り組み、ワースト3は①愛知特集、②環境への取り組み・社会貢献活動、③財務諸表となりました。この結果を受け、今回の「環境への取り組み(P.14)」では、この上期に実施した身近なトピックを重点的に取り上げました。また、「財務諸表」ではP.11に損益計算書をご覧ください。うえでのヒントをご紹介します。



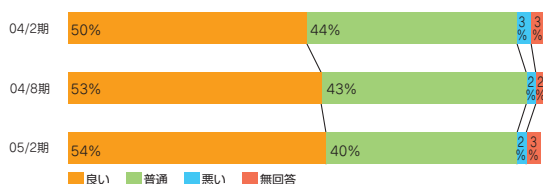
《最近導入した商品・サービスで利用したいもの》

郵便ポストが群を抜いており、ほかから集たいむ、ゼロバンクが続きました。一方で、「導入されたことを知らなかった」という声も多くお寄せいただきました。新しい商品やサービスをひとりでも多くの方に知っていただけるよう、誌面でもよりわかりやすいご紹介を心掛けてまいります。



《当社IR(投資家向け広報)への評価》

わずかながら毎回改善傾向にあり、今回は「良い」が54%と過去最高でした。その理由としては「WAKUWAKU?通信のわかりやすさ」を最も多く挙げていただきました。



*** 主なご質問 ***

Q. 海外展開や新規事業の予定は？

A. 現時点では海外へ進出する予定はありません。国内での集中出店を強化することで、物流効率や弁当工場における稼働率を高め、より強い体質をつくっていく考えです。また、新規事業についても様々な研究を行っていますが、現時点では具体的な予定はありません。

Q. 個人株式構成比が低下しているが？

A. 個人の株式構成比はやや低下傾向にありますが、右ページでもご紹介しています通り、株主数は増加しており、うち個人の株主構成比は04/8期93.5%、05/2期94.3%、05/8期94.7%と回復傾向にあります。今後ともより多くの株主様のご支援をいただけるようIR活動に努めてまいります。

【アンケートご協力お願い】

当社では、「WAKUWAKU?通信」の誌面づくりやIR活動、経営全般において、皆さまより率直なご意見をお聞かせいただきたいと考えております。つきましては大変お手数ですが、同封のアンケートにご協力いただければ幸いです。ご回答をご記入のうえ、ご住所とお名前欄に添付のプライバシー保護シールを貼り、切手を貼らずにそのままご投函下さい。

◆個人情報の取扱いについて◆

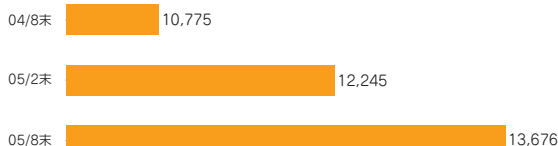
アンケートにご記入いただきましたお名前・ご住所・性別・年齢の個人情報は、アンケート結果の分析および掲載したご質問などに対する弊社からの返信のみに使用し、法令を遵守の上厳格に管理いたします。

株式情報／会社情報(2005年8月31日現在)

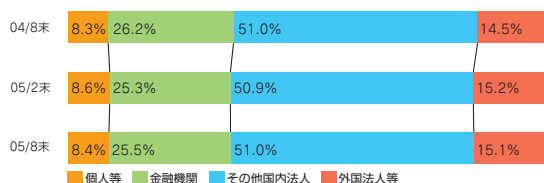
株式数

会社が発行する株式の数	180,000,000株
発行済株式総数	86,183,226株

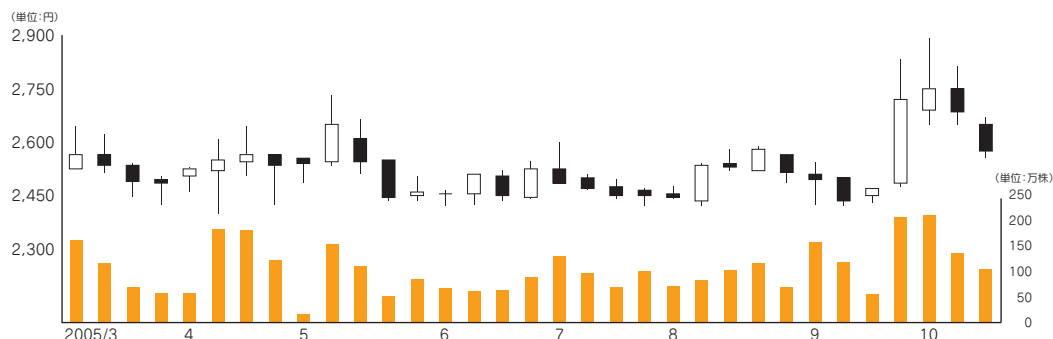
株主数の推移 (単位:人)



株式構成比の推移



株価および出来高の推移



会社概要

商号	株式会社サークルKサンクス
本部所在地	〒135-8539 東京都江東区塩浜二丁目20番1号塩浜ビル
電話番号	03-5635-3939(代表)
登記上本店所在地	愛知県稲沢市天池五反田町1番地
ホームページアドレス	http://www.circleksunkus.jp
設立	2001年7月2日 (注) サークルKサンクスの前身であるサークルケイ・ジャパン株式会社が、持株会社の株式会社シーアンドエス発足に伴い会社分割した日。会社分割前のサークルケイ・ジャパン株式会社は1984年1月26日設立。
資本金	83億8,040万円
銘柄コード	3337 サークルKS
従業員数	1,854人

大株主 (上位10位)

株主名	持株数	持株比率
ユニー株式会社	40,746,520	47.28%
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	8,133,700	9.44%
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	5,084,200	5.90%
野村證券株式会社	1,163,700	1.35%
ステート ストリート バンク アンドトラスト カンパニー-505103	863,087	1.00%
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口4)	700,400	0.81%
ドレスナー・クラインオート・ ワッサースタイン証券会社東京支店	682,300	0.79%
第一生命保険相互会社 特別口	665,900	0.77%
みずほ信託退給付信託みずほコーポレート銀行口 再信託受託者資産管理サービス信託	617,600	0.72%
ザ チェース マンハッタンバンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	603,677	0.70%

役員のご紹介

取締役会長	外山 泰三
代表取締役社長	土方 清
代表取締役専務(開発統括本部長)	夫馬 泰彦
代表取締役専務(運営統括本部長)	石原 彰
常務取締役(運営統括本部サンクス運営本部長)	滝田 貞男
取締役(総務人事本部長)	平野 俊文
取締役(運営統括本部サークルK 運営本部長)	安藤 照康
取締役(システム本部長)	高橋 一夫
取締役(マーケティング本部長)	中村 元彦
取締役(非常勤)	佐々木孝治
常勤監査役	宮崎 恒充
常勤監査役	加納 憲治
常勤監査役	小倉 恒久
監査役	桂川 明
監査役	都築 義明

株主様カレンダー

2005.11.17

下記3点を発送

- ① 配当金関係書類
- ② 05/8期 WAKUWAKU?通信
- ③ 株主様ご優待カード



2005.11.18

配当金振込の方

↓
本日付でご指定の口座へ
振り込まれます

2005.11.18 - 12.19

配当金郵便局受け取りの方

↓
上記の期間、郵便局でお受
け取りになれます(12.20
以降はお近くの住友信託銀
行にてお受け取り下さい)

2005.11.30

株主様ご優待カード
ご利用最終日
(04年秋発行分)



2006.2.11 - 2.28

単元未満株式買い増し
手続き受付停止期間

2006.2.22

サークルKサンクス
権利付株式最終売買日

2006.2.23 - 2.28

上記の期間に当社株をご購
入されても、06年2月末に
おける配当および優待の権
利は得られません

2006.5.31

株主様ご優待カード
ご利用最終日
(05年春発行分)



中間配当: 1株あたり19円

お支払い金額 = 19円 × ご所有株式数 × 0.9 (×0.9は源泉徴収税として10%が引かれるため。※法人の場合を除く)

単元未満株式買い増し制度

単元(100株)未満株式の買い増し制度により、例えば現在30株をお持ちの場合、70株を買い増して100株にすることが可能です。下記の受付停止期間を除いて1年中いつでも買い増しいただけます。手続きの詳細は、株式のご所有形態によって異なりますので、下記までお尋ね下さい。

- ◆ 受付停止期間: 本決算および中間決算の期末日を含む各々それ以前の12営業日(上記カレンダーご参照)
※当社が売り渡すべき株式を保有していない場合、ご請求に応じられないことがあります。
- ◆ お問い合わせ先: 保管振替制度をご利用の方 → お取引の証券会社
登録株となっている方 → 住友信託銀行(株主メモご参照)

株主メモ

決算期 毎年2月末日

株主確定基準日

① 定時株主総会、利益配当金 : 毎年2月末日

② 中間配当金 : 毎年8月31日

その他必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。

定時株主総会 決算期から3ヵ月以内

1単元の株式数 100株

上場証券取引所

東京証券取引所および名古屋証券取引所市場第一部

公告掲載新聞名 日本経済新聞

貸借対照表および損益計算書掲載のホームページアドレス

<http://www.circleksunkus.jp/company/investor/ir/index.html>

名義書換代理人

大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番4号

住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先)

〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10

住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)

住所変更等用紙のご請求

☎ 0120-175-417

その他照会

☎ 0120-176-417

(インターネットホームページURL)

<http://www.sumitomotruster.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

同取次所

住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店